

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	東京福祉大学短期大学部
設置者名	学校法人茶屋四郎次郎記念学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学 共通 科目	学部 等 共通 科目	専門 科目	合計		
短期大学部	こども学科 保育・幼児教育専攻（2年制）	夜・通信	14	0	0	14	7	
短期大学部	こども学科 こども教育・保育専攻（3年制）	夜・通信		0	0	14	10	
短期大学部	こども学科 幼児教育専攻（2年制）	夜・ <u>通信</u>	14	0	0	14	7	
短期大学部	こども学科 こども教育・保育専攻（3年制）	夜・ <u>通信</u>		0	0	14	10	
(備考) こども学科 こども教育・保育専攻（通学課程）は平成31年4月入学生より学生募集停止								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

https://www.tokyo-fukushi.ac.jp/introduction/syllabus.html

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名 なし
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	東京福祉大学短期大学部
設置者名	学校法人茶屋四郎次郎記念学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

<https://www.tokyo-fukushi.ac.jp/introduction/director.html>

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	青陵法律事務所弁護士	2017.4.1～ 2020.3.31	経営計画の策定 組織運営体制のチ ェック機能
非常勤	静岡県議会議員 社会福祉法人みだらけ 福祉会 理事長	2017.4.1～ 2020.3.31	経営計画の策定 組織運営体制のチ ェック機能
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	東京福祉大学短期大学部
設置者名	学校法人茶屋四郎次郎記念学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画(シラバス)を作成し、公表していること。</p>	
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <p>東京福祉大学短期大学部では、シラバス作成過程において、親シラバス制度を導入している。親シラバスとは、シラバスの項目のうち、「授業形態」、「講義概要」、「学習目標」、「成績評価の規準と評定の方法」の4項目を同一科目で共通化した母体のシラバスを意味するシラバスである。この4項目は、異なる教員間であっても共通としている。</p> <p>シラバス作成過程においては、以下に行われる。</p> <p>1. 各学期末に、授業担当教員が「担当科目実施報告書」を作成して、科目責任者に提出。科目責任者は「同一科目担当者協議会」を開催して、教育内容の質の均一化、成果の標準化を目的として行い、親シラバスの各項目の確認を行う。春期授業期間後に実施される同一科目担当者協議会では、親シラバス変更の手続きが行われ、次年度シラバスに反映される。</p> <p>2. 親シラバス変更後、次年度科目担当教員に次年度シラバスの作成依頼が行われ、教員はシラバス作成を行う。</p> <p>3. 教員から提出されたシラバスは、カリキュラム編成専門部会による点検を行い完成となる。</p> <p>なお、通信教育課程は、上記の作業後、科目責任者を中心に通信教育課程のシラバスを確認し、変更された内容を反映させた上で通信教育教務専門部会による点検を行い、完成となる。</p> <p>通学課程における授業計画書の作成・公表時期においては以下のとおりである。</p> <p>入稿依頼 (12月中旬) 一次締切 (1月中旬) シラバスチェック期間 (2月上旬から2月下旬) 修正締切 (3月中旬) 公表 (4月上旬)</p> <p>通信教育課程における授業計画(シラバス)の作成・公表時期においては以下のとおりである。</p> <p>入稿依頼 (2月中旬) 一次締切 (3月中旬) シラバスチェック期間 (4月上旬から4月下旬) 修正締切 (5月中旬) 公表 (6月上旬)</p>	
授業計画書の公表方法	https://www.tokyo-fukushi.ac.jp/introduction/images/syllabus/juniorcollage/junior.pdf

2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。

(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)

(通学課程)

シラバスに「成績評価の規準と評定の方法」の項目を設定している。

評価は学習目標の実現状況を観点として評価することとする。同一科目については「何ができるようになったか」、「何を学んだか」、「どのように学んだか」等を評価・評定の観点として、統一し、客観性を重視するものとする。

評価の方法は、論文（レポート）、試験、実技、口頭試問、受講態度・参加姿勢等を考慮し、客観的な評定を行うよう配慮し、項目ごとに評価の割合（%）を明示することとする。

(通信教育課程)

短期大学部通信教育課程に関する規程第8条に「学習指導は、教科書等の教材の配布、学習、質疑応答、レポート作成・添削指導、面接授業（講義・演習・実習）、放送授業、メディアを利用して行う授業、卒業研究及びその他の方法によって行う。」と定めている。

また、単位認定については、同規程第12条に「単位の認定は、各授業科目の定めるところにより、科目終了試験の合格又はレポート試験及び科目終了試験の合格により与えるものとする。」と定め、履修要項に「レポート・科目終了試験・スクーリング修了試験（オンデマンド授業、放送授業を含む）共通評価基準」を設定し、厳格な評価を行っている。

3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)
学則第35条に定め、大学HPに公表。また履修要項により以下のように記し実施している。

9. 成績の評価

判定	合 格				不 合 格		保留
	100点 ～90点	89点 ～80点	79点 ～70点	69点 ～60点	59点 ～0点	無資格	
評 価	A	B+	B	C	F		I
G P	4	3	2	1	0		

無資格：授業の出席日数不足などで成績評価を受ける資格がないこと。

GPA制度について

本学ではGPA制度を実施しています。各科目とも5段階（A・B+・B・C・F）で成績評価され、それぞれに対して、4・3・2・1・0のグレード・ポイントを付与し、1単位当たりの平均、GPA（グレード・ポイント・アベレージ：Grade Point Average）を算出します。単位修得はC評価でも可能ですが、卒業のためには通算のGPAが2.0以上であることが必要となります。3セメスター（1年半）連続してGPAが2.0未満の学生に対しては、退学勧告がなされます（ただし、突然退学勧告がなされるわけではなく、学科長などから学生に学習指導・生活指導を行い、それでも学力不振が続いた場合に退学勧告となります）。

※GPA算出方法 $GPA = [(GP \times \text{単位}) + (GP \times \text{単位}) + (GP \times \text{単位}) + \dots] \div \text{全履修単位数}$

※一度F評価（不合格：GP=0）をとった単位は、再履修して合格しても、GPA評価の対象となります。（F評価は、卒業するまで履修単位数に計上されます。）

(通信教育課程)

短期大学部通信教育課程に関する規程第10条に定め、大学HPに公表。また履修要項により以下のように記し実施している。

判定	合 格				不 合 格
	100点 ～90点	89点 ～80点	79点 ～70点	69点 ～60点	59点 ～0点
評 価	A	B+	B	C	F
G P	4	3	2	1	0

GPA制度について

単位を修得した各科目の総合評価に対して、GPA（グレード・ポイント・アベレージ）と呼ばれる制度を適用します。

このGPA制度では、各科目の総合評価（A・B+・B・C・F）に対しそれぞれに、4・3・2・1・0のGP（グレード・ポイント）を付与し、修得した単位あたり（編入学等で認定された単位を除く）のGPの平均（グレード・ポイント・アベレージ）を出します。

毎年度、このポイントを出しますが、2年間連続してGPAが2.0未満の学生に対しては、退学勧告がなされます。ただし、突然、退学勧告がなされるわけではなく、学修指導等を行い、それでも学力不振が続いた場合に退学勧告となります。

客観的な指標の算出方法の公表方法	https://www.tokyo-fukushi.ac.jp/juniorcollege/information/images/gpa_jc.pdf
4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。	
<p>(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>次の者に学位を授与する。</p> <p>1) 本学学則第14条に示す卒業要件を満たした者</p> <p>2) 本学のカリキュラムの履修を通して、こども学科が定める「学修成果」を獲得した者</p> <p>学修成果(学生が獲得すべき能力):</p> <p>1. 変化著しい社会において自らの役割と責任を自覚し、自ら学び続け、成長しようとする社会人としての能力</p> <p>A) 汎用的技能</p> <p>B) 態度・志向性</p> <p>C) 統合的な学習経験と創造的思考力</p> <p>2. 多様化する保育ニーズに対応できるこどもの専門家としての能力</p> <p>D) 保育に関する知識と技能</p> <p>E) こどもの成長・発達・心理に関する知識</p> <p>F) 特別な支援を必要とするこどもの理解</p> <p>G) 多文化共生社会の理解</p> <p>H) 音楽・造形・運動等の基礎知識と技能</p> <p>I) 豊かな表現力・想像力</p> <p>3. 家庭・地域社会と連携し、保育とソーシャルワークを担うこどもの専門家としての能力</p> <p>J) 社会福祉に関する知識</p> <p>K) 子育て支援の理解と方法に関する知識と技能</p> <p>L) カウンセリングに関する知識と技能</p> <p>通学課程においては、ディプロマ・ポリシーに基づき所定の単位を修得し、GPA2.0以上であることを踏まえ、教授会及び教育研究評議会の議を経て学長が卒業を認定している。</p> <p>通信教育課程においては、ディプロマ・ポリシーに基づき所定の単位を修得し、GPA2.0以上であることを踏まえ、通信教育委員会の議を経て学長が卒業を認定している。</p>	
卒業の認定に関する方針の公表方法	https://www.tokyo-fukushi.ac.jp/juniorcollege/department/about.html

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	東京福祉大学短期大学部
設置者名	学校法人茶屋四郎次郎記念学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://www.tokyo-fukushi.ac.jp/introduction/publicinformation/finance.html
収支計算書又は損益計算書	https://www.tokyo-fukushi.ac.jp/introduction/publicinformation/finance.html
財産目録	https://www.tokyo-fukushi.ac.jp/introduction/publicinformation/finance.html
事業報告書	https://www.tokyo-fukushi.ac.jp/introduction/publicinformation/report.html
監事による監査報告(書)	https://www.tokyo-fukushi.ac.jp/introduction/publicinformation/finance.html

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称:)	対象年度:)
公表方法:	
中長期計画(名称:)	対象年度:)
公表方法:	

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法: https://www.tokyo-fukushi.ac.jp/juniorcollege/information/index.html

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法:

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 こども学科
教育研究上の目的 (公表方法: https://www.tokyo-fukushi.ac.jp/juniorcollege/department/about.html)
(概要) 「教育基本法と学校教育法」の精神に則り、高潔なる人格と豊かな人格を培い幅広い教養を与えるとともに、併せて保育・多文化社会における子育て支援に関する実用的な専門教育を施し、もって社会の発展に貢献する人材を育成する。
卒業の認定に関する方針 (公表方法: https://www.tokyo-fukushi.ac.jp/juniorcollege/department/about.html)
(概要) 次の者に学位を授与する。 1) 本学学則第 14 条に示す卒業要件を満たした者 2) 本学のカリキュラムの履修を通して、こども学科が定める「学修成果」を獲得した者 学修成果(学生が獲得すべき能力): 1. 変化著しい社会において自らの役割と責任を自覚し、自ら学び続け、成長しようとする社会人としての能力 A) 汎用的技能 B) 態度・志向性 C) 統合的な学習経験と創造的思考力 2. 多様化する保育ニーズに対応できるこどもの専門家としての能力 D) 保育に関する知識と技能 E) こどもの成長・発達・心理に関する知識 F) 特別な支援を必要とするこどもの理解 G) 多文化共生社会の理解 H) 音楽・造形・運動等の基礎知識と技能 I) 豊かな表現力・想像力 3. 家庭・地域社会と連携し、保育とソーシャルワークを担うこどもの専門家としての能力 J) 社会福祉に関する知識 K) 子育て支援の理解と方法に関する知識と技能 L) カウンセリングに関する知識と技能
教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法: https://www.tokyo-fukushi.ac.jp/juniorcollege/department/about.html)
(概要) こども学科が定める「学修成果」獲得のため、次のとおり教育課程を編成する。 1. 幅広い教養と汎用的技能や社会人基礎力獲得のため、「総合教育科目」を設置する。また、総合教育科目を【一般教養科目】【現代社会の理解】【文化や言語の理解】【専門基礎教育】【キャリア開発教育科目】の 5 つに区分する。 2. 保育・幼児教育に関する専門的知識と技能を身につけるため、「専門教育科目」を設置する。また、専門教育科目を【こどもの理解・発達支援】【保育の内容・方法】【子育て支援の理解と方法】【保育・子育て支援の実践と展開】【教育】の 5 つに区分する。 3. 児童福祉法施行規則に従い、保育士資格取得のための必修・選択科目を設置する。 4. 教育職員免許法に従い、幼稚園教諭二種免許状取得のための必修・選択科目を設置する。 5. 通学課程は、4 学期を次のように位置づけ、それぞれ科目を配置する。 ・1 年次春期:

保育者としての基礎力を身に付ける①

多様化する保育ニーズに対応できるこどもの専門家を目指す上で必要な基本的な資質・能力・知識・技能等を獲得する。

・1年次秋期：

保育者としての基礎力を身に付ける②

保育者としての基礎な資質・能力・知識・技能等をさらに伸ばす。また、1年次終了時に実施される保育実習に向けた準備を行う。

・2年次春期：

保育者としての実践力を身に付ける

保育実習及び幼稚園教育実習とその振り返りを通して、実践力を養う。また、保育者としての基礎力を高める。

・2年次秋期：

保育者としての応用力を身に付ける

様々な選択科目の履修を通して多様化する保育ニーズに対応できる応用力を獲得する。また、保育とソーシャルワークを担うこどもの専門家としての知識・技能等も獲得する。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：<https://www.tokyo-fukushi.ac.jp/juniorcollege/admission/method.html>）

（概要）

1. 東京福祉大学短期大学部の教育

本学では、「建学の精神」に基づき、「東京福祉大学短期大学部の教育の目的」「こども学科の教育の目的」「人材養成の目標」の達成、及び「学修成果」の獲得のため、次のことを重視した教育を実践する。

- ①主体的に学修に取り組む意欲・態度の醸成
- ②対話（双方向対話型の授業やグループディスカッション）を通じた深い学び
- ③レポート作成等を通じた「書く力」の育成

2. 入学者選抜の方針

本学の入学者選抜試験の目的は、上記の実践的で効果的な教育を通してこども学科が定める「学修成果」を獲得できる者を選抜することにある。選抜方法としては、A0入試、推薦入試、一般入試、特別選抜入試といった多様な入試を実施する。その際、「読む力」「書く力」「論理的思考力」など学修に必要な基礎的能力については、受験時の実力だけでなく入学後における能力伸長の可能性にも配慮する。

3. 本学が求める学生像

本学では、次のような者を入学者として求める。

- ①幅広い教養を身に付け、人間として成長し、将来社会の発展に貢献しようとする意志を持つ者。
- ②多様化する保育ニーズに対応できる質の高いこどもの専門家になろうとする熱意のある者。
- ③保育者にふさわしい人柄・能力を持った者。
具体的には、自立・自律の心、責任感、社会規範やルールを順守する精神、協調性、コミュニケーション能力、他者を尊重する人間性、奉仕の精神を持った者。

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：<https://www.tokyo-fukushi.ac.jp/juniorcollege/information/images/organization.pdf>

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
—	1人	—					1人
短期大学部	—	6人	8人	10人	4人	0人	28人
	—	人	人	人	人	人	人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長		学長・副学長以外の教員					計
0人		8人					8人
各教員の有する学位及び業績 (教員データベース等)		公表方法： https://www.tokyo-fukushi.ac.jp/juniorcollege/academic/teacher.html					
c. FD（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
短期大学部（通信）	—	0人	0人	0人	0人	0人	0人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長		学長・副学長以外の教員					計
1人		504人					505人
各教員の有する学位及び業績 (教員データベース等)		公表方法： https://www.tokyo-fukushi.ac.jp/juniorcollege/academic/teacher.html					
c. FD（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
こども学科 保育・幼児教育専攻（2年制）	75人	54人	72.0%	123人	90人	73.2%	—	—
こども学科 こども教育・保育専攻（3年制）	—	—	—	36人	37人	102.8%	—	—
合計	75人	54人	72.0%	159人	127人	79.9%	—	—
（備考） 平成30年度より、こども学科 こども教育・保育専攻（通学課程）は募集停止。								

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等

学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
こども学科 通信教育課程 幼児教育専攻 (2年制)	150人	56人	37.3%	300人	221人	73.7%	—	—
こども学科 通信教育課程 こども教育・ 保育専攻 (3年制)	200人	55人	27.5%	600人	383人	63.8%	—	—
合計	350人	111人	31.7%	900人	604人	67.1%	—	—
(備考)								

b. 卒業生数、進学者数、就職者数

学部等名	卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
こども学科 保育・幼児教 育専攻 (2年制)	20人 (100%)	0人 (0%)	20人 (100.0%)	0人 (0%)
こども学科 こども教育・ 保育専攻 (3年制)	26人 (100%)	3人 (11.5%)	23人 (88.5%)	0人 (0%)
合計	46人 (100%)	3人 (6.5%)	43人 (93.5%)	0人 (0%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項)				
(備考)				

c. 修業年限期間内に卒業する学生の割合、留年者数、中途退学者数 (任意記載事項)

学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業生数	留年者数	中途退学者数	その他
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
合計	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
(備考)					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

<p>(概要)</p> <p>本学では、授業計画書（シラバス）作成過程において、親シラバス制度を導入している。親シラバスとは、シラバスの項目のうち、「授業形態」、「講義概要」、「学習目標」、「成績評価の規準と評定の方法」の4項目を同一科目で共通化した母体のシラバスを意味するシラバスである。この4項目は、異なるキャンパス・教員間であっても共通としている。</p> <p>シラバスの作成過程は以下のとおりである。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 各学期末に、授業担当教員が「担当科目実施報告書」を作成して、科目責任者に提出。科目責任者は「同一科目担当者協議会」を開催して、教育内容の質の均一化、成果の標準化を目的として行い、親シラバスの各項目の確認を行う。春期授業期間後に実施される同一科目担当者協議会では、親シラバス変更の手続きが行われ、次年度シラバスに反映される。 2. 親シラバス変更後、次年度科目担当教員に次年度シラバスの作成依頼が行われ、教員はシラバスを行う。 3. 教員から提出されたシラバスは、カリキュラム編成専門部会による点検を行い完成となる。 <p>なお、通信教育課程は、上記の作業後、科目責任者を中心に通信教育課程のシラバスを確認し、変更された内容を反映させた上で通信教育教務専門部会による点検を行い、完成となる。</p>

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

<p>(概要)</p> <p>(通学課程)</p> <p>ディプロマ・ポリシーに基づき所定の単位を修得し、GPA2.0以上であることを踏まえ、教授会及び教育研究評議会の議を経て学長が卒業を認定している。</p> <p>(通信教育課程)</p> <p>ディプロマ・ポリシーに基づき所定の単位を修得し、GPA2.0以上であることを踏まえ、通信教育委員会の議を経て学長が卒業を認定している。</p>				
学部名	学科名	卒業に必要となる 単位数	GPA制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
短期大学部	保育・幼児教育専攻 (2年制)	62単位	有・無	単位
	こども教育・保育専攻 (3年制)	94単位	有・無	単位
短期大学部 (通信)	幼児教育専攻 (2年制)	62単位	有・無	単位
	こども教育・保育専攻 (3年制)	94単位	有・無	単位
GPAの活用状況 (任意記載事項)		公表方法：		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		公表方法：		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法： https://www.tokyo-fukushi.ac.jp/jukennavi/access/index.html

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考 (任意記載事項)
短期大学部	保育・幼児教育専攻 (2年制)	530,000円	150,000円	345,000円	
	こども教育・保育専攻 (3年制)	円	—	円	平成30年度より募集停止
短期大学部 (通信)	幼児教育専攻 (2年制)	149,000円	30,000円	12,380円	他、面接授業1単位登録につき8,000円、実習費等を徴収。
	こども教育・保育専攻 (3年制)	149,000円	30,000円	14,820円	他、面接授業1単位登録につき8,000円、実習費等を徴収。

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組
<p>(概要)</p> <p>本学では、学生の学業や学生生活に関する相談を受ける学業相談員としてアカデミックアドバイザー制度を導入している。</p> <p>アカデミックアドバイザーは、学修の進め方、履修に関する相談対応等のほか週1回1コマ90分のホームルームを行っている。</p> <p>アカデミックアドバイザーは、担任及び学業相談員として、学生の学修が円滑に進むように次のような相談及び指導、支援を行っている。</p> <p>①ホームルームの担当（保育・教育実習等オリエンテーションの調整、就職オリエンテーションの調整等を含む）</p> <p>②春期・秋期オリエンテーション実施（履修指導・時間割作成・履修登録届作成等）</p> <p>③各学年担当の行事指導（赤城山宿泊研修、七夕会、クリスマス会、卒業研究発表会）</p> <p>④履修カルテのとりまとめ</p> <p>⑤学業成績通知書配付等</p> <p>⑥個別状況調査票の作成等</p>
b. 進路選択に係る支援に関する取組
<p>(概要)</p> <p>(通学課程)</p> <p>本学では、就職支援室が学生の就職活動をサポートしている。本学に寄せられる求人票を管理し、学生の希望と照らし合わせながら求人情報を提供。応募書類の記入から就職試験・面接等に至るまで、個別面談を中心に親身で丁寧な支援を行っている。また、企業を招いてのセミナーの実施等で就職を支援している。</p> <p>(通信教育課程)</p> <p>本学では、学生が通信教育の履修方法や、学修を進めるなかで不安や質問が生じた場合に、様々な方法でサポートを行っており、スカイプによるインターネットを介した対面相談、電話、FAXにより学修内容に関する質問や相談に応じる相談員（学修アドバイザー）や、事務取扱い等の窓口となる通信教育課で問合せに応じている。</p>
c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組
<p>(概要)</p> <p>学生相談室を設置し、学生生活において生じる様々な事柄、特に精神的な問題について相談することができる。</p> <p>相談は平日週4日受け付けを行い、臨床心理士が相談の対応を行ない、学生と相談内容について一緒に考え、問題の解決に協力する体制としている。</p>

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：<https://www.tokyo-fukushi.ac.jp/juniorcollege/information/index.html>